

ある人生の記録

経済学者の夫、森嶋通夫を語る

第3回 もはや社研を見限るべきときだ



森嶋瑤子略歴

もりしま ようこ：1930年神戸生まれ。東京女子大学数学科（旧制）卒業後、日立製作所中央研究所助手、大阪大学経済学部助手などを務める。1968年に家族とともに来英し、以後、英国在住。1984年、国際児童文庫協会（ICBA）を東京で創設したオーバル・ダン氏とロンドンで出会い、日本語の文庫活動を始め、ICBA UK支部を創設。以後、支部長を務める。

20世紀後半、世界的な経済学者として英国の名門大学で教授職を務められた森嶋通夫氏。私が森嶋さんを知ったのは学生時代、同氏の著書を読んだのがきっかけだった。毎日の忙しさに森嶋さんのことは記憶の彼方にあっただが、約2年前にあるレセプションで森嶋さんの奥様、瑤子さんと出会ったことから再び同氏の在りし日の活躍に思いを馳せるようになった。森嶋氏の人生の三角波を瑤子さんから伺う、全6回シリーズ。



（センターピープル代表取締役 飯塚忠治）

※三角波：時化た海で方向の違う二つ以上の波が重なってできる三角形の波で、船の舵が取れなくなる危険な状態を言う。

森嶋通夫略歴

もりしま みちお：1923年～2004年。大阪府生まれ。京都帝国大学経済学部経済学科在学中に徴兵。軍では暗号解読を担当した。戦後、京都大学助教授、大阪大学教授を経て1968年に来英し、エセックス大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）の教授を歴任。ノーベル経済学賞の候補者とも目された世界的な数理経済学者。

飯塚 第1回、2回で、経済学の分野における「世界の森嶋」として、そして正義、信念に軸足を置かれた生き方をされたプリンシプルを全うされた人物としてお話をいただきました。本日は英国に生活の軸を置くという決心をされるまでの背景についてお話を伺いたしたいと思います。

瑤子さん 森嶋は1950年、京大で経済学部助教授となりました。戦後左傾化した京大経済学部では周囲の人たちが自分のプリンシプルを持たず、都合の良いときには右にいたり、時には左にいたりプリンシプルのない大混戦が巻き起こっていただけでなく、森嶋自身、学問的にも自分の立ち位置が見えなくなり、新設されたばかりの阪大に移りました。その3年後、高田保馬学部長が創設した社会経済研究所（社研）に最初の所員として移り、助教授でしたが専任者として働くことになったのです。

飯塚 戦後まもなくのことで現代の人たちには遠い昔の話のようですが、同様なことは今の社会でもありそうに思えます。その場その場での和を貴ぶ傾向が日本人には多いため、プリンシプルを通そうという人は足を引っ張られるということにつながるのですね。

瑤子さん 社研では高田先生がご高齢でしたから、森嶋が実質的な責任者として動き始めました。集まった人たちは当時の日本の経済学界の最先端をゆく精鋭で、外国からも注目された近代経済学のグループでした。そこで森嶋は実力主義、是々非々で物事を進め、友人、教授会をも巻き込んで大いに論争をするようにし、世界に通じる経済学を日本から発信しようと壮大な夢を持って取り組んだ

のです。1960年には関西経済連合会（関経連）の支援を得て、阪大社研とペンシルバニア大学による共同編集の「International Economic Review (IER)」を創刊しました。

飯塚 戦後色もまだまだ色濃い1960年代は、明治維新からの日本の発展基盤であった、物事を外国（西洋）から学ぶという哲学が当たり前だったと思います。そんな時期に、世界に通じる経済学を日本から発信しようと考えられた森嶋さんは、実力をお持ちであるだけでなく型破りな方だったのですね。

瑤子さん 筋を通すということをプリンシプルにした森嶋とは、軋轢が生じた同僚もいました。そんな難しい局面でも森嶋は何とか社研を世界に通じるものにとしようと最大限の努力を惜しんだことはありませんでした。森嶋が社研にいた1965年、42歳のときでしたが、世界の著名な経済学者がメンバーとなっているエコノメトリック・ソサエティー（ES）の会長に推されて就任。日本では当時、今でもそうかもしれませんが、40歳代はまだまだ若輩者で、日本の学界の会長などは夢の夢だったのに、世界的な経済学者の集まるESの会長に就任したわけですから、森嶋の経済学者としての活動のためには僥倖ではあったのですが、一方で日本の同僚とは感情的な緊張が高まってきていたようです。森嶋が社研を辞めた後で、そのころの出来事は「妬みが根本にあったのがよく見えました」という話を第三者から何回か耳にしましたので、そうだったのでしょう。

飯塚 森嶋さんは日本国内よりも海外で高い評価を受けておられたのがES会長就任にもつながったのだと思います

が、実際にはどのような対立があったのですか。

瑤子さん 社研での対立は、森嶋自身が実名でメモワールに書いています。発端はその同僚が社研の非常勤研究員だった際に教授会で専任助教授という提案がなされたことです。森嶋としては、彼が戦時中は皇国思想であったにもかかわらず、戦後間もなくフルブライト留学生として米国で博士号を取った変わり身の早さと、その後も新右翼として行動していたということから、実質的な運営責任者として社研の将来に思想的対立が生じることを懸念してこの人事案に反対したのですが、その時点で助教授職であった森嶋の意見は採用されずに教授会で決定されたのです。

飯塚 どこに軸足があるかということは行動のすべてに通じるとお考えだった？

瑤子さん 理を主張すればするほど相手は和に走り、森嶋の不和をなじるような状況が生じ、森嶋が中心になって設立された社研はついに爆発して、森嶋は理が負ける国である「英国」に向けて飛び出した、こういうことになります。森嶋は、日本の会社で起きる不祥事は「筋」を通すというスピリットが欠如しているからだとして厳しく指摘しています。人々は理よりも和による保身を考える。そしてそういう行為が蓄積して大罪が起り、組織が崩壊するのである、と。このように「理」による考え方を自分の生きる原点に置いて物事に当たってきた人でした。

本コラムの過去記事は、下記アドレスでご参照いただけます
www.centrepeople.com/japanese/article

Presented by
centre people
Recruitment Consultants

情報を発信し続けるセンターピープルは、人材紹介、派遣のエキスパートです。
誠意をもって心をこめたサービスを企業様、ご登録者の皆様に提供することを常に目指しております。

お呼び
ですか？

こんな時はセンターピープルにご相談下さい！

- 🐾 期間の決まった新規プロジェクト立ち上げ
- 🐾 正社員の予算はないが、戦力が必要
- 🐾 正社員の出産休暇中の戦力
- 🐾 様々な状況による柔軟な戦力として
- 🐾 繁忙期の期間限定戦力
- 🐾 短期、長期
- 🐾 日本語、英語、欧州言語

多忙で猫の手も借りたい時は、 戦力としてのテンプ【派遣社員】

私たちはこの道のプロフェッショナルです。テンプ採用に限らず正社員の採用の際にも弊社サービスをご利用いただくことで、安心してビジネスにご専念いただけます。

centre people
Recruitment Consultants



Centre People Appointments - Temp Staff 80 Cheapside London EC2V 6EE
Tel: 020 7621 3581 E-mail: centrepeople@centrepeople.com www.centrepeople.com

